

## 第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録

日 時	平成23年6月24日（金）午後7時～8時30分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	12名
出席者	委 員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七（11名出席）	
	事務局	地域協働部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 （7名出席）	
次 第	1 市長あいさつ 2 辞令交付 3 自己紹介 4 議題 1) 会長・副会長の選出について 2) 会議及び会議録の公開について 3) 第6次高浜市総合計画推進会議の役割について 4) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について 5 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議委員 名簿 資料2：第6次高浜市総合計画推進会議設置規則 資料3：第6次高浜市総合計画推進会議 会議及び会議録の公開について（案） 資料4：第6次高浜市総合計画進行管理体制（イメージ） 資料5：高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方（イメージ） 資料6：高浜市の未来を創る市民会議への提案（第1回：6月2日分）一覧		

## 1. 市長あいさつ

- ・この推進会議は、第6次総合計画策定時、市民の皆さまから総合計画の行く末が見たいという声から生まれたものである。
- ・「大家族たかはま」というフレーズを掲げているが、高浜市の中で起こっていることは、私たちの家族の中で起こっていること。お互いを気にしながら、いろいろなところでお互いが力を出し合い、支え合えば、行く末を見ていかなければならないというのは当然のこととなる。
- ・高浜市の事業は、それぞれが“お客さん”にならない、“私も”という気持ちで参加・参画していただける事業を行っていきたい。
- ・長丁場になるが、ぜひこれからも高浜市総合計画の推進について、皆さまから貴重なご意見を伺いながら、委員の皆さまには、市民会議に参加される皆さんのご意見のとりまとめをよろしくお願い申し上げます。

## 2. 辞令交付

市長より、各委員に辞令交付。

## 3. 自己紹介

委員・事務局による自己紹介。

## 4. 議題

### 1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により、以下の通り決定した。

会 長 中川幾郎委員

副会長 小笠原芳夫委員

#### 【会長あいさつ】

会 長： ・前回の総合計画審議会の熱がまだ冷めていないが、気持ちを新たに取り組んでいきたい。委員の皆さまにも、出来るだけ積極的な発言をいただいで進めていきたいので、よろしく願いしたい。

### 2) 会議及び会議録の公開について

事務局より、資料2「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」、資料3「第6次高浜市総合計画推進会議 会議及び会議録の公開について（案）」について説明。

—原案どおり承認される—

### 3) 第6次高浜市総合計画推進会議の役割について

事務局より、資料2「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」、資料4「第6次高浜市総合計画進行管理体制（イメージ）」について説明。

#### 【質疑等】

委 員： ・（仮称）高浜市行政評価委員会は、これから設置するのか。

- 事務局： ・現在、財務評価グループで評価委員会の設置要綱等のとりまとめ作業を行っており、8月くらいまでに立ち上げたい。推進会議に報告することがあれば、報告させていただく。
- 委員： ・委員の選任基準は分からないが、事業の中身が分からないのに、思いつきでものを言う人もいる。事業仕分けでも、「私はよく知らないが、こうではないか。」など、評論家的な発言が多かったが、市民と行政の協働ということで頑張っている人もたくさんいる。行政職員の説明力不足で、市民に事業が見えないということもあると思うが、市民が一生懸命取り組もうと思っている意識をそぐことのないようにしてほしい。
- 事務局： ・委員については、補助金や外部委託などで評価のノウハウを持っている方を想定している。出来るだけ、事業の中身を知っている人をお願いをしたい。アクションプランについて、成果指標や活動指標を設定し、それに基づいた達成度について評価を行っていく仕組みを考えている。
- 委員： ・アクションプランの評価シートは、推進会議に出してもらえるのか。総合計画はPDCAということで、しっかり計画を立てて中身をチェック、評価して、次のアクションへつなげるということになっている。1つの工程全部がPDCAではなく、その工程の中の各プロセスに対してPDCAが深く掘り起こされていくということだと思う。シートの概略などあれば、ぜひ見せていただきたい。
- 事務局： ・評価シートは、評価委員会で精査し、内容が固まってきたら推進会議へお示ししたい。
- 会長： ・推進会議と評価委員会の役割が完全に切断されることはない。総合計画は最上位計画であり、それをうけた形でアクションプランの評価を行うのが正しい。
- ・有効性＝アウトカムは、審議会で十分議論した話であり、その方向に沿った評価指標に基づいて評価していただきたい。総合計画を否定するような評価が出るはずがない。その点については、評価委員会にきっちりお伝えしておくことが大事。所管グループが違うということで、話が切断されていると、余分な仕事をすることになりかねない。連動性を十分確保する必要がある。
  - ・有効性＝アウトカムについては、評価委員会でご意見は伺っても良いが、最終判定は推進会議。評価委員会では、経済性＝コストの問題、生産性＝パフォーマンスの問題を重点的にやっていただきたい。
  - ・“行政評価”と言った場合、政策評価を含むのか含まないのかで大きく分かれる。政策評価は、推進会議の仕事だと思っている。推進会議と評価委員会の評価が真っ向から対立するということがあったら変。

—原案どおり承認される—

#### 4) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について

事務局より、資料5「高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方（イメージ）」、資料6「高浜市の未来を創る市民会議への提案（第1回：6月2日分）一覧」について説明。

##### 【質疑等】

- 委員： ・各事業1分で説明するというのは、詰め込みすぎではないか。直接関わっている人は分かるかもしれないが、関わっていない人にとっては、全く意味が分からないのでは。新しく市民会議に参加される方もいる。スライドや画像など、分かりやすく理解できる工夫をしていただきたい。
- 事務局： ・時間に限りもあり、アクションプランは行政がつくったものであるため、職員の見える化と事業の内容の目通しということで行いたい。詳しい部分や質問については、分科会でお願いしたい。
- 委員： ・初めから分科会に分けて、しっかり説明をしてはどうか。ぱっと見てわからない部分もある。後で、分科会で質問と言われても、質問する内容自体分からないということになる。
- ・参加している皆さんに全部の事業を分かってもらいたいという想いも分かるが、昨年1年やってきて、詰め込みすぎだと感じた。終わりの方で参加率が落ちたのは、手法に問題があったのではないか。PDCAということで、昨年の反省をするのであれば、やり方を変えてはどうか。
- ・市民メンバーが口コミで「高浜市はこういうことをやっているんだ」、「みんな一緒に参加しようよ」と仲間をつくるのが必要なのに、それが、最初から形式で終わっているのではないか。
- 事務局： ・分科会ごとに深くというのは、もっとも。ただ、初めて関わっている人にも、総合計画を一通り、どの職員・グループが携わっているのかということも含めて、知っていただき、その後、分科会でもう少し中身についてやりとりしていただきたい。
- ・職員も、自分の事業をきちんと説明するというせっかくの機会。今回は、この方法で実施させていただきたい。
- 委員： ・教育・子ども分科会は、昨年の3分科会が合体し、内容が多くなっている。進行状況の説明ということだが、今の動きが説明されるのかということと、分科会のテーマがどういう進んでいるかということが目に見えてこない、アイデアを出したいと思っても、全く新しいアイデアを出すのか、今進行している中で出てきた問題について話し合うのか分からない。
- 事務局： ・出来るだけ、現在行っていることを含めて説明するよう、職員に再度通知したい。具体的な事業の中身、課題等について深く説明してほしいということだが、今回の分科会は、職員がしっかり説明、取り回しをしてほしいと思っているため、ご意見をいただきながら、より良いものにしていきたい。

- 委員：・昨年、当初から教育に関わる3つの分科会は関連があるので、合同でいろいろやりたいと案を出してお願いしてきたが、結局叶わず、今回は、1つの分科会になっていた。皆さんと楽しく意見を出して行うには、情報が必要。動きがあるもの、情報があるものは早く出していただきたい。
- 委員：・職員には“伝える”ことではなく、“いかに伝わったか”が大切だと言っている。こうした会議の中で、皆さんとコミュニケーションを取り、“伝える力”をつけてほしいので、ご指導をよろしくお願ひしたい。
- 会長：・市民会議は、市民と行政職員の協働会議。そういう意味では、行政職員の方が課題を説明し、市民の皆さんに理解してもらおうアクション・能動性が必要ということだろう。議論、理解を深めるところは分科会。事務局は、今の意見を踏まえ、市民会議の運営を進めていただきたい。
- 事務局：・次回会議の日程を早めに教えてほしいというご意見もあったので、第3回の市民会議の日程を決めさせていただきたい。事務局としては、7月28日（木）を考えている。第3回では、一旦全体会ということでお集まりいただき、すぐに部屋に分かれて分科会を行っていただこうと考えている。

—異議なし—

- 会長：・市民会議は活力、意見の活発さが命。委員の皆さんのリーダーシップをよろしくお願ひしたい。
- ・以上で、本日の議題は終了するが、第1回の会議ということで、委員の皆さんから今後に向けた抱負など、一言ずついただきたい。
- 委員：・まだ全体像が分かっていない。財政分科会は、全ての事業を絡めて見ていかなければいけない分科会。大きくお金を使う部分ではなく、何に使うかという部分も含めて、きちんと掌握しながら話し合っていきたい。
- 委員：・分科会をいかに活性化するか。活性化することで、いろいろな意見が出てくる。そういったことを、この会議の中で出していけたらと思う。
- 委員：・不安もあるが、きっと終わったらしっかり出来ているだろうと信じて、頑張りたい。
- 委員：・第3回で意見をとりまとめて24年度の予算編成に反映するとあるが、初めから夢を大きくしすぎて、後で予算がないから出来ないとならないようにお願ひしたい。
- 委員：・“どんな方策”で“どんな進め方”を“どんな目標”に向かってやっていくのかということをも分科会メンバー全員が共有し、ベクトルを合わせるということを最初にやっていきたい。
- 委員：・リーダーを務めるのは不安だが、サブリーダーがいるので非常に心強い。早急な対応が必要な分科会ということで、出来るだけ多くの方が参画できるように3年間頑張っていきたい。

- 委員： ・ベースは、市民会議・推進会議でつくるもの。市民がみんな危機感を持って参加して、“自分のため”ということでやっていただく意識改革を行うことが必要。
- 委員： ・不安や分からないことがまだまだ多い。アクションプランということで、行政が中心となって立派なものが出来ているが、前回の市民会議には、「何か出来るのではないか」ということでたくさんの方が参加していた。しかし、今回、その方たちが手を挙げていただけていないのは、メンバーの皆さんの思いが上手く反映できなかったからかと反省している。
- 委員： ・行政の思いがあってつくったものなら、担当の方が市民会議メンバーに分かるように話をしていただけると、少しでも良いもの、皆さんが納得するものが出来るのではないか。そのためには、参加している自分自身が納得できるものが出来なければ良いものは出来ないで、自分も努力していきたい。
- 委員： ・去年は、市民アンケートの結果を大事に参考にしてまとめたことがたくさんある。今回進めるにあたって、“市民目線の意見・提案”とあるが、今回もアンケートなどを取っていただけなのか。
- 事務局： ・“市民目線の意見・提案”とは、市民会議そのものを指す。メンバーの声と、メンバーの皆さんの周りの方の声を持ち寄っていただくことで、市民の皆さんにとってより良い事業が実施できるという意味。
- 事務局： ・アンケートは、24年度に、23年度の指標の達成状況を見るために実施する。それ以外に必要であれば、分科会で検討してアンケートを実施していただいたり、全体会に呼びかけなどしていただければと思う。
- 委員： ・市民会議も推進会議も、まず、スタートする勇気から始まる。走りながら柔軟な対応が必要。参加する職員のレベルアップのためにも、職員には、的確に厳しい意見をお願いしたい。
- 会長： ・総合計画が策定され、アクションプランも出来上がったが、まだまだ出てくるアイデアは出した方が良い。総合計画を具体的に前に進めていくためにも、もっといろいろ必要になる。アクションプランで全て言い尽くせているとは限らない。
- 会長： ・これまで、行政内部から挙がってくる目標基準や数値は、かなり抽象的であいまいなものが多かったが、最近は、どんどんシャープでシビアなものに変わってきている。
- 会長： ・神戸市では、リーマンショック後、原因不明であらゆる項目の数値が悪化した。これは、経済状況の変動が、答える人の気持ちに影響しているということ。こういったことも、バイアスとして見ないといけない。
- 会長： ・測定するための評価指標は、総合計画策定時にたくさん議論して慎重につくってきたが、場合によっては、数値や内容の修正、サブ指標の設定

をしても良い。生駒市では、成果指標を1年で3分の1変更している。柔軟に対応をしてほしい。

- ・進行管理を行っていく上で大変重要なのは、事務局を担う職員の負担が多いことと、能力に依存しているということ。そういう意味で、高浜市の行政職員の優秀さには期待をしている。
- ・総合計画の目標管理は、課長級以上の幹部職員の責任が重い。業績評価の目標を自ら設定し、評価指標を出したのだから、それに基づいて業績評価をするということ。
- ・評価指標の安定性については、スタートラインであるため、自信を持っているが、反論が出てきたときには、謙虚に耳を傾けたい。評価指標が全部確立されているわけでもない。より良い高浜市をつくっていくため、行政職員と一緒に、より良い測定指標をみんなで固めていくことができるという。あれだけ議論し合っただけでつくった評価指標のため、簡単にぐらつくものではないという確信を持っているので、よろしく願いたい。

## 5 その他

- 委員： ・議事録の承認は次回の会議のときと説明があったが、2か月も先で良いのか。
- 事務局： ・推進会議で「異議なし」の声をいただき、承認していただいてからになる。書面表決という方法もあるので、検討させていただく。
- 会長： ・教授会などでも、先月の議事録を翌月承認するくらい。早くしたいということであれば、委員さんに議事録をお見せして、全員の合意が取れた時点で承認とすれば良い。
- 事務局： ・では、ご提案のあったとおり、出来上がった段階で送付し、意見があれば修正して公開するという形にさせていただく。

第3回市民会議：7月28日（木）午後7時から、

第2回推進会議：8月25日（木）午後7時から、

第3回推進会議：10月6日（木）午後7時から、開催することとする。

以上